

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1970700645 | | |
| 法人名 | 有限会社 みんなの家どんぐり | | |
| 事業所名 | グループホームどんぐり | | |
| 所在地 | 山梨県南巨摩郡富士川町小林1954-7 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年8月20日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------|--|--|
| 評価機関名 | 山梨県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 甲府市北新1-2-12 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年9月15日(木) | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな農村地帯に立地しており、普通の民家のような建物で自宅のように自由に過ごしてもらっている。自宅ではないが、第二の我が家として最期まで普通の暮らしができるように支援させていただいている。利用者様のそばで話をよく聞き、ニーズを引き出してそれをかなえられるようにしている。利用者様の願いは何か、どのように生活して生きていきたいかを職員は日々、皆で話し合い、考えている。寝たきりの方の自宅訪問や、ドイツ在住の娘さんの里帰りまで生きる望みをつないだ方、最後の花見を楽しんだ方などそれぞれの利用者様やご家族の笑顔が見られるように支援させていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は果樹園が多いが、近隣には住宅、公園、町民体育館、保育所等もあり、住環境に恵まれた場所に位置している。デイサービスと併設した木造2階建ての1階が事業所で、一般住宅のような建物が地域に馴染んでいて、自然な印象と温かみを感じられる。1ユニット9名の定員の所、7名とし第二の我が家として利用者が「ゆっくり、のんびり」生活できるようにを理念として、利用者一人ひとりのニーズに対応した支援を心掛けると共に生活を持った支援に日々努めている。また、居室の入り口には、利用者の身体状況、歩行、車いす等を表示しており、災害時等誘導の目安になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームどんぐり

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|--|
| | | | ユニット名() | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ゆっくりのんびりという理念を共有してその人らしく過ごされるよう支援している。 | 「第二の我が家を目指して、のんびり、ゆっくりにいきいきと」を理念として利用者が笑顔でその人らしい生活が送れているかという視点で支援している。毎月1回の職員ミーティングでは、利用者一人ひとりに添った支援ができてきているかを話し合い、管理者と職員は共有して支援に努めている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 秋の祭りや文化祭に参加しているが、日常的な交流はない。 | 自治会には加入していないが、地域の職員から情報を得て、秋祭りや文化祭に利用者の作品を出展して地域行事に参加している。また、中学生の職場体験、ボランティアの受け入れ、保育園児の訪問もある。日常的の散歩の際は、地域の人達と挨拶を交わしたり、野菜等を頂くこともあり地域の一員として交流している。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の人への介護教室を町と協働で行うことを協議している。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者様の状況については報告している。サービスの実践や評価への取り組みは報告や話し合いはしていない。 | 2か月に1回、平日の午後7時から開催し、利用者家族が出席出来るよう配慮している。会議では事業所からの報告や納涼会、忘年会等行事の様子をスライドにして日頃の様子を伝えている。夜間避難訓練に参加した家族から、防災頭巾が大きい、ヘルメットにヘッドライトを装着してはとの意見があり反映した。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 施設長が市町村担当者と連絡を取り合っている。運営推進会議においてもホームの概況については報告している。 | 運営推進会議への出席や会議の通知、事業所のおたより等書類は出向いて届けるなど、担当者との情報交換や相談ができる関係を築いている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に当たる事柄についてはほぼ全ての職員が理解している。必要時、最低限の拘束は家族の了承のもと、行う場合がある。 | 職員は内部、外部研修で身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を理解し、身体拘束をしないケアを実践している。利用者の行動を制限する言葉は使用しないように職員間で注意している。日中は施錠しないで自由な暮らしを支えるよう、近所の人にも声掛けや連絡してもらえる関係を大切にしている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人内外の研修で高齢者虐待関連法について学んでいる。事業所内の虐待については防止に努めている。 | | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っていない。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際は、十分な説明を行い、その後、疑問点や不安な点を聞いて答えている。 | | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームどんぐり

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|------|-------------------|
| | | | ユニット名() | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議で意見や要望を聞いている。いただいた意見は運営に反映させている。 | 利用者や家族の意見は主に運営推進会議で検討しているが、それ以外にも毎日または、一日おきに面会に来る家族もいて、その都度利用者の様子を話したり、家族の意見や要望を聞くことができる。気軽に話しやすい雰囲気づくりに心掛けている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングで出された意見や提案を運営に反映させている。 | 年に1回施設長との個人面接を実施している。目標、評価の記入用紙をもとに面接し意見を聞いている。職員からの意見では、勤務形態の変更やランチョンマットの使用、高齢者向けおせち料理の外注、デイサービスのマッサージ機を借りる等職員からの提案を受け入れ日常の支援に取り入れた。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は目標達成シートなどを用いて職員個々の目標や努力内容、勤務状況を把握している。各自が働きやすいよう、勤務時間を調整したり、人数配置を多くしたりしている。 | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各自のキャリアや能力に応じた研修を受講させている。 | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協会の同業者交流会に出席を勤めている。協会加入のホームを見学する交流会もある。 | | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人の表情、態度、などに注意しながらそばでゆっくりと話を聞く時間を設けている。困っていること、わからないことがあればそれに答えたり、一緒に考えたりしている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 最初の面接と本人の居住地への訪問、契約時に家族と話し合い、困っていることや要望を聞き、その解決策を提案したり一緒に考えたりしている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 家族と本人、関係の施設職員から話を聞き、情報をアセスメントして現在のニーズを引き出している。必要があれば、併設のデイサービスに遊びに行く、なじんだ場所を訪ねる等の支援もしている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人と職員が一緒にゆっくりとした時間を過ごしたり、茶碗洗いや洗濯物たたみなどを一緒に行っている。 | | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームどんぐり

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|------|-------------------|
| | | | ユニット名() | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人の生活の様子や願いを家族に伝え、必要なことを出来る範囲内で協力していただいている。食事介助に来てくださるご家族や自宅訪問の際に一緒に過ごして下さったりしている。本人の好きな食べ物を常に差し入れして下さる方もいる。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会は原則自由となっており、仕事が終わってから顔を見に来る家族もいる。馴染みの美容院の利用や、通い慣れた神社やお寺へのお参りも支援している。 | 入居前のアセスメントで情報を得られるが、ケアマネジャーから詳細を聞くこともある。知人や友人が近所に住んでいて面会に来てくれたり、自宅に帰宅すると近所の人との交流がある。また、行きつけの美容院やお寺、神社、買い物等家族と一緒にいくなど、人と場所の関係が途切れないよう支援に努めている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者と関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士の関係性を把握し、席順を決めている。おしゃべりが大好きな方々はソファーと一緒に腰掛けてもらい、ゆっくりと過ごしてもらっている。食欲がない方でも好きな利用者様に励まされて、がんばって食べている方もいるので、食事の時にお互いが話し合える機会を作っている。 | | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用の終了は死亡退所がほとんどなので、葬儀に参列したり、四十九日の頃、思い出のアルバムを差し上げたりしている。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人と一緒にゆっくり過ごす時間を作り、思いや願いを聞いたり、表情や態度から読み取るようにしている。本人が一番何を望んでいるか、職員全員で考えている。 | 利用者の意向は入居前のアセスメントで把握している。日常的に食事、入浴、睡眠等の場面で利用者の表情や態度から意思を読み取り、出来るだけ意に添うように対応している。また、お化粧する、メガネをつかう、散歩する等入居前の習慣を家族が代弁してくれることもあり利用者一人ひとりの要望に努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族や本人から生い立ちから子供の頃の思い出、家族のこと、仕事のことなど聞き、サービスに反映させている。思い出のアルバムを持ってきてもらい、その中の写真からいろいろなエピソードを聞いている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 体温表や日々の記録や日頃の観察などからできること、できないことや体調、気分の変動を把握している。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族の面会時やカンファレンス時に課題や解決策など話し合っている。家族からいただいた意見はできるだけケアに反映させるようにしている。 | 入居前に自宅にて面談をし、入居時に利用者、家族の意見、要望を反映した介護計画を作成する。利用者担当職員が毎月モニタリングし、3か月に一度アセスメントを含めて職員全員でカンファレンスを行っている。通院が必要な場合や生活リハビリ等の要望がある場合は反映し現状に即した介護計画の作成を行っている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別に日々の記録用紙にその日の状態を記録し、全員が目を通して情報を共有している。ケアのヒントやアイデアもそこから得ている。 | | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームどんぐり

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|---|--|
| | | | ユニット名() | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 広告を見て食べたいものがあつたら、メニュー変更して希望のものを食べられるようにしたり、出かけた希望があれば、入浴の予定を変更して外出したりしている。 | | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 入所以前の生活を把握し、行きつけの美容院の利用や通い慣れた神社やお寺へのお参りを支援している。以前働いていた時に出入りしていた酒蔵を訪ねた人もいる。 | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 基本的には入所前からのかかりつけ医に受診するようにしている。しかし、介護度が上がり、受診が困難になった時には、往診医への変更を勧めている。 | 利用者3名が入居前からのかかりつけ医、4名が月1回協力医の往診を受診していて、利用者、家族が希望するかかりつけ医となっている。受診には家族と一緒に職員も同行し日頃の様子を伝えるようにしている。歯科や精神科の専門医の受診は職員が同行し、すべての受診結果に関する情報は家族に伝え共有している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職がホーム内と併設のデイサービスに勤務しており、夜間もオンコール体制を取っているのですぐに連絡や相談ができるようになっている。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院した際は定期的に面会に行き、病院関係者とも情報交換している。入院時は介護要約を送っている。 | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時にホスピスケアの希望の確認書を記入してもらい、体調が変化するたびに再確認している。また、適切な時期に医師と家族と施設で話し合いの機会を持ち、今後の治療や療養、あるいは看取りの方針について共有している。 | 入居時に重度化した場合や終末期について意向を確認している。管理者が看護師であるので、日常的に情報交換を行い、状況に応じて医師や家族等と話し合いの場を持ち、事業所が対応し得るケアについて説明を行い、利用者や家族の意向を踏まえて今後の方針を確認しながら取り組んでいる。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急手当等の訓練は9月に行う予定になっている。 | | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、日中と夜間に避難訓練をしている。地域への声かけもして参加していただいている。 | 年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。実際夜間実施している避難訓練には、地域住民の参加やデイサービスの職員が利用者として加わり、避難経路の確認や地域住民の役割を確認して協力体制を築いている。 | 今ある火災、地震災害のマニュアルの他に水害、侵入者等についてのマニュアル作成を検討して、災害時対策に関する話し合いや具体的な支援体制の整備に取り組むことを期待したい。また、地域の消防団との交流や家族への避難場所の周知を徹底し混乱防止についても検討することを希望する。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 時々、トイレの誘導など大きな声でしてしまうことがあり、気をつけている。 | どんなに親しくなってもきちんとな前で呼び、トイレ誘導時も目立たずさりげない言葉かけや場面に合った話し方等に配慮している。居室にはノックしてから入ることやのれんを下げて戸が開いていても部屋の中が見えないようプライバシーに配慮した対応をしている。 | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームどんぐり

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|------|-------------------|
| | | | ユニット名() | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 何かをするときには、「どうしますか?」と利用者様の意思を確認するようにしている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入浴の時間や食事時間、外出のタイミングなど必ず本人の希望に添っているとは限らない。できるだけ本人の希望に合わせるようにはしている。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 好きな洋服を着たり、パーマをかけたり、お化粧品したり、好きなメガネや時計、ネックレスをつけている。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の下ごしらえをしてもらったり、野菜を刻む、盛り付けする、などしてもらっている。食事の後の茶碗を運んでもらったり、茶碗洗い、茶碗ふきなどしてもらっている。 | 朝と夕食は事業所で調理し、昼食は併設しているデイサービスで調理している。食材はデイサービスで用意するが利用者と一緒に買い物に行く事もある。おやつ作り、下ごしらえ、食器洗い茶碗拭き等出来る利用者と職員と一緒にやっている。外食や誕生会はメニューを工夫して利用者の楽しみとなっている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人一人の食べ方に応じて盛りつけを変えたり、水分もゼリーや果物などいろいろな形に変えて提供している。季節の食材を取り入れるようにしている。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自分で出来る人は見守りをして、そうでない人は出来る能力に応じて介助している。 | | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 体温表を用いて排泄のパターンの把握をしている。排泄のサインも見逃さないようにして、トイレへ誘っている。 | 排泄、バイタルサイン、入浴状況等を一覧表にしたチェック表を活用している。生活リズムを整えることで、排泄のパターンがわかり、自立にむけて取り組むことができる。夜間はポータブルトイレを居室に置いて使用する利用者もいるが、日中は車椅子で生活している利用者もトイレで排泄できるよう支援している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | かぼちゃやさつまいもなどの繊維の多いもの、乳製品などの腸を動かす作用のあるものなどを組み合わせてメニューを作っている。ヤクルトを毎日飲んでいる人もいる。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日は便宜上、決まっているが希望があればそれ以外でも入浴できる。入浴したくない時には無理強いはいしない。入りたくなるような浴室の雰囲気作りや働きかけをしている。 | 週3回(月・水・金又は火・木・土)の入浴が目安であるが、希望があれば毎日入浴可能である。入浴拒否の理由は、家に帰りたい、疲れた、眠い、妄想等であるが、気分を変えるような言葉かけや入浴剤の使用、銭湯のようなネーミング(玉の湯)で雰囲気づくりに工夫し、入浴を楽しめるように支援している。 | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームどんぐり

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | ユニット名() | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 休みたい時に休めるようにソファを2つ用意している。夜も眠くなるまでテレビを見たり、おしゃべりしている。不安で眠れない人には添い寝することもある。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人ファイルに薬の名前、用法が書いてある。職員はそれを見て薬を把握している。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 主婦の方には家事の手伝いをお願いしている。動物が好きな方には猫の世話をお願いしている。歌が好きな方はお気に入りのCDを聞いたり、みんなで歌ったりしている。お寿司が好きな方が多いので回転寿司に出かけることもある。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 親戚の家や自宅に行きたいという方には、できる限り、行けるように家族と相談して実現できるようにしている。外に行きたい時には一緒に散歩したり、買い物に行ったりしている。 | 日常的には散歩が多いが、買い物に同行したり、デイサービスの送迎車に同乗しドライブすることもある。利用者の希望で、花見、紅葉見物等日頃行けない所に行き、帰りに外食をすることも楽しみにしている。外食には家族や地域の人を誘うこともあり、自宅に帰る場合は家族と連携している。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在の利用者様はお金を持ちたい希望の方はいない。以前は少額の入った財布を肌身離さず持っている方がいた。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 現在、自分で電話をかけられる方はいない。希望があれば、代行してかけて本人と家族とで話をしてもらおう。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間は柔らかい色の照明を用いて温かみのある空間を演出している。温度計で室温は管理し、窓際はカーテンで遮光したり、エアコンと扇風機で室温を一定に保つようにしている。季節の飾りつけをしている。 | 淡い色合いの壁面で暖かなイメージと清潔感がある。食堂、廊下、ホールは床であるが畳のスペースもあるのでテレビを見たり、ゆったり過ごすことができる。利用者による制作や季節に応じた装飾、職員紹介がされていて家庭的で開放的な雰囲気がある。猫を2匹飼育しているので、利用者の癒しとなっている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファで一人で休んだり、仲良しの方と一緒に座っておしゃべりしたり、他の方から離れた席で静かにゆっくりと過ごしたりしている。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 仏壇をおいて、毎朝、拝んでいる人がいる。布団で休みたい方は布団で、ベッドが良い方はベッドを備えている。家族の写真や思い出のアルバムなどを置いている。 | 居室は畳に障子の和室で利用者の好みでベッドまたは布団を使用している。テレビ、仏壇、衣装ケース、イス等を持参し室内は、誕生日の写真や家族写真、飾り等で各自個性に合わせて飾られている。また、エアコンと照明器具は備え付けとなっている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや浴室にはわかりやすい表示がしてある。大きな字の日めくりカレンダーやどこからでも時計が見えるようにしており、見当識を補っている。各部屋には表札があり、自分の部屋であることを知らせている。 | | | |